

令和5年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔文学部人文学科〕

プログラムの名称（和文）	日本・中国文学語学プログラム
（英文）	Japanese and Chinese Languages and Literatures
1. 取得できる学位 学士（文学）	
2. 概要	
<p>日本・中国文学語学プログラムでは、日中双方の言語・文芸の特色を比較検討して相互の影響関係の様相を探求し、また両者を総体として大きな視座で捉えなおすことができる人材を育成するための教育を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文学語学分野では、古代から近世までの古典文学、近現代文学、日本語学の研究と教育が用意されています。 ・中国文学語学分野では、上古から現代に到るまでの文学作品や、文字の変遷、語法の特異性、音韻論等について研究ができます。 	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）	
<p>文学部は、「主として人文科学の分野における幅広い基礎学力と専門知識を有し、鋭い感性と客観的視点に基づいて現代社会を的確に見据え、その発展に貢献できる人間性豊かな個性的人材を養成すること」を教育の根本理念として掲げています。そして、この理念を具体化するために、「伝統的研究の成果と方法論を継承し、専門領域における基礎的研究を深化すること、新たな研究領域や学際領域に常に注目し、幅広い研究を積極的に推進すること、現代社会に対する鋭い問題意識を常に持って、研究を活性化すること、外国語の運用能力を高めるとともに、専門領域の必要に即した情報処理能力を身につけること、絶え間ない自己改革を行う謙虚さ・柔軟性を養うこと、人類の歴史を学び、国際平和の精神を重視する姿勢を培うこと」という教育目標を定めています。</p> <p>本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本・中国の文学語学に対する幅広い基礎学力と専門知識を修得する。 (2) 日本文学語学、中国文学語学、それぞれの専門分野に関する伝統的研究の成果と方法論を修得する。 (3) 各専門領域における基礎的研究を深化させるとともに、現代社会に対する鋭い問題意識を持って、新たな研究領域や学際領域も積極的に開拓する素養を身につける。 <p>この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。 (2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人間文化に対する深い洞察力を培い、自ら卒業論文を作成して、提出しなければならない。 	

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、所定の教養教育科目を履修する。
- (2) 学生は、2年次に教育プログラム・専門分野に配属され、日本・中国文学語学の歴史及び各専門分野に関する基礎的知識と理解を修得するために、専門科目としての専門概説、専門演習を履修する。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、独創的・複眼的な考察力と表現力を磨いて、自ら卒業論文のテーマを設定し、学士課程における勉学の集大成として卒業論文を作成する。

5. プログラム・専門分野の開始時期・受入条件

開始時期：2年次から

受入条件：学生の志望を尊重しつつ、入学後の履修状況を参考に、第1年次末に次の方法で審査決定します。

ただし、光り輝き入試総合型選抜Ⅱ型により入学した学生は、受験したプログラムへ配属されません。

(1) 志望届の提出

1年次の1月末までに教育プログラム・専門分野志望届と志望理由書を提出します。

(2) 受入審査の方法は原則として次によります。

- ・志望者が受入目安数内の場合：学生の志望どおり受け入れます。
- ・志望者が受入目安数を超えた場合：学業成績上位者から受入目安数までを受け入れます。

受け入れられなかった学生は下位の志望先にて、受入目安数の範囲内で受け入れます。ただし、上位で志望した者が優先されます。

6. 取得可能な資格

- ・中学校教員一種免許状（国語，社会，英語，ドイツ語，フランス語）
- ・高等学校教員一種免許状（国語，地理歴史，公民，英語，ドイツ語，フランス語）
- ・学芸員となる資格

7. 授業科目及び授業内容

※ 授業科目は、別紙1の履修表を参照。

※ 授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示します。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」, 「優秀(Very Good)」, 「良好(Good)」の3段階で示します。

成績評価	数値変換
S (秀 : 90点以上)	4
A (優 : 80~89点)	3
B (良 : 70~79点)	2
C (可 : 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00~4.00
優秀(Very Good)	2.00~2.99
良好(Good)	1.00~1.99

本プログラムにおける学習成果の評価法についての詳細は、

※ 別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照。

※ 別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照。

※ 別紙4のカリキュラムマップを参照。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属時期と方法）

○ 位置付け

卒業論文は、本プログラムの到達点と位置付け、卒業論文指導4単位、卒業論文8単位を必修とします。本プログラムでの学習成果を集大成し、自己の学習の到達水準を見極め、卒業後の更なる発展を促すことを目的とします。

○ 配属時期と作成方法

4年次前期に、各自が設定した研究テーマに基づいて卒業論文指導教員を定め、当該教員の指導を受けて10月末に題目を、1月末に論文を提出します。

10. 責任体制

PDC A責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価（check）・改善（action））

本プログラムの計画・実施・評価検討・対処は、日本・中国文学語学プログラム教員会が責任を持っています。プログラム外からの評価検討・対処は、全学の教育質保証委員会が行います。

別表（細則第4条第3項関係）

文学部教育課程

卒業要件単位数 124単位（教養教育科目40単位，専門教育科目84単位）

教養教育科目

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目	単位数	履修指定	標準履修 (注1)				
							1年次				
							1セメ	2セメ	3T	4T	
教養教育	平和科目		2		2	選択必修		○			
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○				
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○				
		展開ゼミ（注3）	(0)		1	自由選択		○	○	○	
	外国語科目（注4）	領域科目		20	（注2）（注5）（注8）	2	選択必修	○	○	○	○
		英語	コミュニケーションⅠ	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○	○		
					コミュニケーションⅠB	1		○	○		
			コミュニケーションⅡ		コミュニケーションⅡA	1				○	○
					コミュニケーションⅡB	1				○	○
			上記4科目のうちから2科目以上								
		初修外国語	ドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語，アラビア語のうちから1言語選択	4	ベーシック外国語Ⅰ	1	必修	○	○	○	○
					ベーシック外国語Ⅱ	1		○	○	○	○
					ベーシック外国語Ⅲ	1		○	○	○	○
					ベーシック外国語Ⅳ	1		○	○	○	○
		英語または初修外国語（注6）		2	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	選択必修	○	○		
					コミュニケーション基礎Ⅱ	1				○	○
インテンシブ外国語Ⅰ					1	選択必修	○	○			
インテンシブ外国語Ⅱ	1							○	○		
情報・データサイエンス科目		4	情報・データ科学入門（注7）（注8）	2	必修		○				
			（注7）	2	選択必修			○	○		
健康スポーツ科目		(0)	（注3）（注8）	1又は2	自由選択	○	○	○	○		
社会連携科目		(0)	（注3）（注5）	1又は2	自由選択	○	○	○	○		
基盤科目		(0)	（注3）	1～3	自由選択	○	○	○	○		
計			40								

注1：○印は標準履修時期を表している。なお、当該ターム（またはセメスター）で単位を修得できなかった場合は、これ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するターム（またはセメスター）が異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。なお、表中ではタームは「T」と表記する。

注2：自然科学系科目群から2科目4単位以上及び人文社会科学系科目群から2科目4単位以上を選択履修すること。

注3：展開ゼミ，健康スポーツ科目，社会連携科目または基盤科目を履修した場合は，領域科目を履修したものとみなす。

注4：英語・初修外国語の履修については，外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細は，教養「外国語科目」に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注5：要修得単位数を超えて修得した領域科目及び社会連携科目のうち，使用言語が「英語」の授業科目の単位は，英語の単位とすることができる。

注6：コミュニケーション基礎Ⅰ，Ⅱまたはインテンシブ外国語Ⅰ，Ⅱのどちらか2単位を修得すること。英語以外の外国語をさらに深く学びたい学生は，インテンシブ外国語Ⅰ，Ⅱを履修するのが望ましい。超過分の単位は，2単位まで領域科目の単位とすることができる。

注7：情報・データサイエンス科目の履修については，2ターム開講の「情報・データ科学入門」を必ず修得し，「コンピュータ・プログラミング，知能とコンピュータ，データサイエンス基礎，ゼロからはじめるプログラミング，教育のためのデータサイエンス」の中から2単位を修得すること。超過分の単位は，2単位まで領域科目の単位とすることができる。

注8：教育職員免許状を取得する場合は，領域科目「日本国憲法」2単位，情報データ・サイエンス科目「情報・データ科学入門」2単位及び健康スポーツ科目2単位を修得すること。詳細は，専門「教育職員免許状の取得について」を参照すること。

専門教育科目

日本・中国文学語学プログラム

区分	授業科目	開設期	単位	履修区分	備 考
専門基礎科目 26単位	入門科目 (各分野の入門科目の中から)	1・2	6	選択必修	超過分の単位は、2単位まで自由選択科目の単位とすることができる。
	英語	3-8	10	選択必修	文学部提供教育プログラム 共通科目群のもの。 各人の志望する分野に合わせて選択履修すること。
	人文学概説A, B				
	比較文化A, B, C				
	[日本文学語学分野]				
	欧米文学語学・言語学プログラムの概説・研究法の科目				
	[中国文学語学分野]				
	現代中国語演習A, B				
	中国語中級会話演習(総科)				
	中国語上級会話演習(総科)				
	中国語中級聴取法演習(総科)				
	中国語上級聴取法演習(総科)				
	欧米文学語学・言語学プログラムの概説・研究法の科目				
自由選択科目	1-8	10	選択必修	文学部・他学部の専門教育科目及びセンター等開設科目から選択すること。	
専門科目 46単位	専門概説 [日本文学語学分野] [中国文学語学分野] の概説・研究法の科目	3-6	46	選択必修	各人の志望する分野の専門科目を26単位以上履修すること。
	専門演習 [日本文学語学分野] [中国文学語学分野] の基礎演習, 発展演習, 特別演習の科目	3-8			
卒業論文科目 12単位	卒業論文指導A, B	7・8	4	必修	
	卒業論文	8	8	必修	
合計			84		

専門教育科目一覧

日本・中国文学語学プログラム

分野	区分		科目コード	授業科目	学期単位	開設単位	配当年次	授業形態	免許教科 ○包括的科目
日本文学語学	専門基礎科目	入門科目	BK0010	日本文学語学入門	2	2	1	講義	
		専門概説	概説・研究法	BK2002	日本語学概説	2	2	2	講義
	BK2120			日本語学研究法	2	2	3	講義	国語
	BK2073			古代中世文学概説	2	2	2	講義	○国語
	BK2074			古代中世文学研究法	2	2	3	講義	国語
	BK2020			近世文学概説	2	2	2	講義	○国語
	BK2075			近世文学研究法	2	2	3	講義	国語
	BK2080			近代文学概説	2	2	2	講義	○国語
	BK2081			近代文学研究法	2	2	3	講義	国語
	BK2082			現代文学概説	2	2	2	講義	○国語
	BK2083			現代文学研究法	2	2	3	講義	国語
	専門科目	基礎演習	BK4011	日本語学演習 I	2	2	2	演習	国語
			BK4021	古代中世文学演習I	2	2	2	演習	
			BK4040	近世文学演習I	2	2	2	演習	
			BK4050	近代文学演習I	2	2	2	演習	
		BK4060	現代文学演習I	2	2	2	演習		
		発展演習	BK5001	日本語学演習 II	2	2	3	演習	
			BK5011	日本語学演習 III	2	2	3	演習	
			BK5021	古代中世文学演習II	2	2	3	演習	
			BK5040	近世文学演習II	2	2	3	演習	
			BK5050	近代文学演習II	2	2	3	演習	
			BK5060	現代文学演習II	2	2	3	演習	
		特別演習	BK6000	日本語学特別演習A	2	2	4	演習	
			BK6010	日本語学特別演習B	2	2	4	演習	
			BK6040	日本文学特別演習A	2	2	4	演習	
			BK6050	日本文学特別演習B	2	2	4	演習	
			BK6060	日本文学特別演習C	2	2	4	演習	
			BK6070	日本文学特別演習D	2	2	4	演習	
			BK6080	日本文学特別演習E	2	2	4	演習	
	BK6090		日本文学特別演習F	2	2	4	演習		
	BK6100	日本文学特別演習G	2	2	4	演習			
	BK6110	日本文学特別演習H	2	2	4	演習			
中国文学語学	専門基礎科目	入門科目	BL0010	中国文学語学入門	2	2	1	講義	
		基礎科目	BL0020	現代中国語演習 A	2	2	2	演習	
			BL0030	現代中国語演習 B	2	2	2	演習	
	専門概説	概説・研究法	BL2010	中国語学研究	2	2	2	講義	
			BL2020	中国文学語学特講A	2	2	3	講義	
			BL2030	中国文学講読	2	2	2	講義	
			BL2040	中国文学研究	2	2	2	講義	
			BL2050	中国文学語学特講B	2	2	3	講義	
			BL2060	中国語史	2	2	3	講義	国語
			BL2070	中国文学史	2	2	3	講義	○国語
			BL2080	中国古代中世漢語講読	2	2	2	講義	国語
		基礎演習	BL4000	中国古典散文演習	2	2	2	演習	国語
			BL4010	中国古典韻文演習	2	2	2	演習	国語
	専門演習	発展演習	BL5001	中国語学演習 A	2	2	3	演習	国語
			BL5011	中国語学演習 B	2	2	4	演習	国語
			BL5020	中国近世漢語演習 A	2	2	3	演習	
			BL5030	中国近世漢語演習 B	2	2	4	演習	
			BL5040	中国近代漢語演習	2	2	3	演習	

専門教育科目一覧

日本・中国文学語学プログラム

分野	区分		科目コード	授業科目	学期単位	開設単位	配当年次	授業形態	免許教科 ○包括的科目	
中国文学語学	専門科目	専門演習	発展演習	BL5050	中国中世文学演習A	2	2	3	演習	国語
				BL5060	中国中世文学演習B	2	2	4	演習	国語
				BL5070	中国近世文学演習A	2	2	3	演習	
				BL5080	中国近世文学演習B	2	2	4	演習	
				BL5090	中国現代文学演習	2	2	3	演習	
		特別演習	BL6000	中国文学特別演習A	2	2	4	演習		
			BL6010	中国文学特別演習B	2	2	4	演習		
			BL6020	中国文学特別演習C	2	2	4	演習		
			BL6030	中国文学特別演習D	2	2	4	演習		
共通	卒業論文科目		BX4100	卒業論文指導A	2	2	4	演習		
			BX4200	卒業論文指導B	2	2	4	演習		
			BX4500	卒業論文	8	8	4	演習		

日本・中国文学語学プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 課題を学際的・総合的にとらえる広い視野の習得	諸課題をいろいろな視点から考える確に理解することができる。	諸課題をいろいろな視点から考え理解することができる。	諸課題をいろいろな視点から考えることができる。
	(2) 日本、中国いずれかの文学または語学に関する基本的理解	文学史または語学資料に関する知識を習得しており、自己の研究分野において活用することができる。	文学史または語学資料に関する基本的事項は習得しており、より発展的な理解ができる。	文学史または語学資料に関する基本的事項について理解できる。
	(3) 日本、中国いずれかの文学または語学に関する基礎的知識の習得	いずれかの時代の文学または音声・語彙・語法に関する基礎的知識を習得しており、研究において、それらを的確に発揮することができる。	いずれかの時代の文学または音声・語彙・語法に関する基礎的知識を習得しており、研究において、それらを有効に発揮できる。	いずれかの時代の文学または音声・語彙・語法に関する基礎的知識を習得できる。
能力・技能	(1) 知的活動の基本となるスキルの習得	専門的な知識を習得するための基本的スキルを十分に活用することができる。	専門的な知識を習得するための基本的スキルを応用することができる。	専門的な知識を習得するための基本的スキルを使うことができる。
	(2) 日本、中国のいずれかの文学または語学に関する原典の読解力の習得	語句の意味、用法及び文の構造、表現上の特色を理解し、作品内容を構成や展開に即して的確にとらえることができる。	語句の意味、用法及び文の構造を理解し、作品内容を構成や展開に即してとらえることができる。	語句の意味、用法及び文の構造を理解できる。
	(3) 日本、中国のいずれかの文学または語学に関する資料調査能力の習得	辞書などの基本的文献を活用ことができ、必要に応じて原典資料を独力で調査できる。	辞書などの基本的文献を活用ことができ、原典資料を調査できる。	辞書などの基本的文献を活用することができる。
	(4) 日本、中国のいずれかの文学または語学を対象とする研究の方法の習得	従来の研究方法を習得しており、自己の研究に応用し、独自の研究を展開できる。	従来の研究方法を習得しており、自己の研究に応用することができる。	従来の研究方法を習得できる。
	(5) 日本、中国いずれかの文学作品の鑑賞力、あるいは日本語または中国語の音声や文字・語彙・語法の分析力の習得	作品の鑑賞力を幅広く習得しているか、あるいは音声や文字・語彙・語法の分析力を習得しており、自己の研究に活用することができる。	作品の鑑賞力を習得しているか、あるいは音声や文字・語彙・語法の分析力を習得しており、自己の研究に活用できる。	作品の鑑賞力を習得しているか、あるいは音声や文字・語彙・語法の分析力を習得できる。
総合的な力	(1) 日本語の表現力の習得	日本語の表現力が豊かであり、自己の見解を説得力ある文章によって表現することができる。	日本語の表現力を身につけており、自己の見解を表現することができる。	日本語の表現力を発揮できる。
	(2) 論理的思考力を身につけて、自分の意見を発表できる論文作成能力の習得	論理的思考力を身につけており、自分の意見を論理的に展開できるすぐれた論文を作成できる。	論理的思考力を身につけており、自分の意見を論理的に展開できる論文を作成できる。	論理的思考力を身につけており、自分の意見を発表することができる。
	(3) 従来の研究成果を踏まえて、独創性を発揮できる力の習得	当該の専門分野における従来の研究成果を幅広く習得しており、論文作成において独創性を発揮できる。	当該の専門分野における従来の研究成果を習得しており、論文作成において独創性を発揮できる。	当該の専門分野における従来の研究成果は習得しており、自己の論文作成に生かすことができる。
	(4) 日本または中国の文化の特質、あるいは相互の関係を考える能力の習得	4年間の学習を通して総合的知識・能力を習得しており、日本または中国の文化の特質、あるいは相互の関係を独創的に考えることができる。	4年間の学習を通して総合的知識・能力を習得しており、日本または中国の文化の特質、あるいは相互の関係を主体的に考えることができる。	4年間の学習を通して総合的知識・能力を習得しており、日本または中国の文化の特質、あるいは相互の関係を考えることができる。
	(5) 自ら課題を設定し、問題を解決する能力の習得	4年間の学習を通して、自ら課題を設定し、問題を解決する能力を習得しており、すぐれた卒業論文を作成することができる。	4年間の学習を通して、自ら課題を設定し、問題を解決する能力を身につけており、一定の水準に達する卒業論文を作成することができる。	4年間の学習を通して、自ら課題を設定し、問題を解決することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門領域における研究を行うために必要な基礎学力を身につけるとともに、さまざまな分野の研究の方法・成果・課題を学習して、専門研究に活用できる独創的な視点を養う。中国文学語学分野を志望する者は、中国語の基礎学力を習得する。

日本・中国文学語学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(1) 課題を学際的・総合的 にとらえる広い視野の 習得	(1T) 教養ゼミ (◎)							
	(2T) 展開ゼミ (△)							
	(1T) 大学教育入門 (◎)							
	(2T) 平和科目 (○)							
領域科目 (○)								
(2) 日本、中国いずれかの 文学または語学に 関する基本的理解		(4T) 日本文学語学入門 (○)						
		(3T) 中国文学語学入門 (○)						
			(2T) 日本語学概説 (○)	(3T) 古代中世文学概説 (○)	中国文学語学特講A (○)	(3T) 日本語学研究法 (○)		
			(1T) 近世文学概説 (○)	(4T) 近代文学概説 (○)	中国文学語学特講B (○)			
	(3) 日本、中国いずれかの 文学または語学に 関する基礎的知識の習得			(2T) 現代文学概説 (○)	現代中国語演習B (○)	(2T) 中国語史 (○)		
				現代中国語演習A (○)	中国語学研究 (○)	(2T) 中国文学史 (○)		
			(1T) 中国文学講読 (○)	中国古代中世漢語講読 (○)				
(1) 知的活動の基本となる スキルの習得	コミュニケーションⅠ (◎)	コミュニケーションⅡ (◎)						
	ベーシック外国語 (○)							
	コミュニケーション基礎Ⅰ (○)	コミュニケーション基礎Ⅱ (○)						
	インテンシブ外国語 (○)							
	(2T) 情報・データ科学入門 (◎)	情報・データサイエンス科目 (○)						
(2) 日本、中国のいずれかの 文学または語学に 関する原典の読解力の習得			古代中世文学演習Ⅰ (○)	日本語学演習Ⅰ (○)	中国近世文学演習A (○)			
			近代文学演習Ⅰ (○)	近世文学演習Ⅰ (○)				
			中国古典散文演習 (○)	現代文学演習Ⅰ (○)				
				(3T) 中国文学研究 (○)				
			中国古典韻文演習 (○)					
(3) 日本、中国のいずれかの 文学または語学に 関する資料調査能力 の習得					日本語学演習Ⅱ (○)	日本語学演習Ⅲ (○)		
					近世文学演習Ⅱ (○)	古代中世文学演習Ⅱ (○)		
					現代文学演習Ⅱ (○)	近代文学演習Ⅱ (○)		
					中国近世漢語演習A (○)	中国語学演習A (○)		
						中国近代漢語演習 (○)		
						中国中世文学演習A (○)		
					中国現代文学演習 (○)			
(4) 日本、中国のいずれかの 文学または語学を 対象とする研究の方法 の習得					(2T) 古代中世文学研究法 (○)	(3T) 近世文学研究法 (○)	中国近世漢語演習B (○)	中国語学演習B (○)
					(2T) 近代文学研究法 (○)	(3T) 現代文学研究法 (○)	中国近世文学演習B (○)	中国中世文学演習B (○)
(5) 日本、中国いずれかの 文学作品の鑑賞力、 あるいは日本語または 中国語の音声や文字・ 語彙・語法の分析力の 習得							日本語学特別演習A (○)	日本語学特別演習B (○)
							日本文学特別演習 A,C,E,G (○)	日本文学特別演習 B,D,F,H (○)
							中国文学特別演習 A,C (○)	中国文学特別演習 B,D (○)

日本・中国文学語学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合的な 力 (1) 日本語の表現力の習得 (2) 論理的思考力を身につけて、自分の意見を 発表できる論文作成能力の習得 (3) 従来の研究成果を踏 まえて、独創性を発揮 できる力の習得 (4) 日本または中国の文 化の特質、あるいは相 互の関係を考える能力 の習得 (5) 自ら課題を設定し、問 題を解決する能力の習 得							卒業論文指導A (◎)	卒業論文指導B (◎)
								卒業論文 (◎)
							卒業論文指導A (◎)	卒業論文指導B (◎)
								卒業論文 (◎)
							卒業論文指導A (◎)	卒業論文指導B (◎)
							卒業論文 (◎)	
							卒業論文指導A (◎)	卒業論文指導B (◎)
								卒業論文 (◎)

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

※ターム科目の区別は、科目名の前に記載する。
 第1ターム: 1T 第2ターム: 2T 第3ターム: 3T 第4ターム: 4T
 (例) 第1ターム開講の科目 → (1T)コミュニケーション

日本・中国文学語学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線	研究室	メールアドレス
有元伸子	教授	6671	A461	narimoto@hiroshima-u.ac.jp
小川恒男	教授	6672	A463	tsuogawa@hiroshima-u.ac.jp
川島優子	教授	6673	A464	yukoyuko@hiroshima-u.ac.jp
久保田啓一	教授	6670	A460	kekubota@hiroshima-u.ac.jp
白井純	教授	6666	A457	jshira@hiroshima-u.ac.jp
小川陽子	准教授	6668	A459	
下岡友加	准教授	6667	A458	shimooka@hiroshima-u.ac.jp
陳 翀	准教授	6674	A462	chenchon@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-内線番号4桁」とすれば直通電話となります。